

TEAM

地域 エコ アクション ミーティング



最前線

～その後の脱温暖化物語～

15 ひがしひろしま環境家族

自然環境に配慮したエコ生活を実践

「おしゃれにLOHAS」をテーマに活動

ひがしひろしま環境家族は、平成十九年に持続可能な地球を子どもたちに残していきたいという思いを持つ主婦層が中心となって、行政や大学生・地域住民などに参加を呼びかけ発足した。まずは、親や子どもたちを中心に、エコクッキングや電気の使用量を互いにやりとりする「市民版排出量取

引(GETS)」など、家庭でできることから取り組みを始めた。今年度は、活動のテーマを「おしゃれにLOHAS」と掲げ、LOHASを取り入れた自然環境に配慮したエコ生活を実践する仲間を増やすことに力を入れている。十一月十日は東広島市サンスクエアで「LOHAS生活入門講座」を開催、二十五人の参加があった。オ

ガニックコットンやフェアトレードなどをやさしく解説し、ティータイムを設けるなど、癒しのサロン風を実施したところ、参加者からは、家庭でできることのヒントが多く得られたなど、大変好評であった。

十一月十六日には東広島市中央公民館で、「温暖化と太陽光」をテーマに掲げた新たな視点の地域セミナー(八面記事参照)も開催、一月にはスローフードをテーマにした第二回の「LOHAS生活入門講座」も予定しており、協議会メンバーは準備に余念がない。

事務局長の小池恵美子さんは「メンバーたちも常に学ぶ姿勢を持っており、参加者だけでなく私たちも楽



LOHASを伝える手づくり展示物

LOHASとは

Lifestyles of Health and Sustainability (ライフスタイルズ オブ ヘルス アンド サステナビリティ)の頭文字をとった略語で、健康と環境、持続可能な社会生活を心がける生活スタイルのこと。



50人が参加したアドプトサインの序幕式

県内の公衆衛生推進協議会の共通重点Xニューの「アドプトNETひろしま(公共空間美化運動)」に新たに取組む府中市大黒町内会、十月二十五日、アドプトサイン(看板)の除幕式が行われた。地元町内会の関係者ら五十人が参加、アドプト空間として指定した一級河川出口川の黒

町ふれあい水辺公園(幅十二、全長百五十)の空き地に設置された看板を囲み、活動の意義などを確認。春、秋の一斉清掃を中心に町内会や公衛協委員、老人会有志が最低一月に一回以上、随時

広島市「110万人のエコ講座」業務 環保協が受託

町内会を主体に講座を開催

地域支援課で企画・運営

広島市は、広島県雇用創出基金事業の一環として、全市民を対象に「ごみ減量・リサイクル」「地球温暖化」をテーマとした「100万人のエコ講座」を実施す

る。当会は、その講座の開催における企画・運営業務を受託した。100万人のエコ講座は、町内会を主体とした市民グループを対象に、ごみ減量・リサイクル及び地球温暖化対策に関する一時講座の開催を実施するもので、広島市において依然として増加傾向にある家庭系可燃ごみの減量と、深刻化している地球温暖化問題に関する課題を解決するた

人の専門員が担当し、エコ講座用に新たに作成するテキストを用いて、講義およびごみ減量や省エネなどに関する実習を行う。新規採用の専門員は、十二月中旬に地域活動支援センター職員が講師を務める講師養成研

修を受け、エコ講座の開催に必要な知識・技術を習得してもらうとしている。目標は、「全ての町内会でエコ講座を実施すること」。今年度は特に、講座開催にあたっての体制(連絡、調整、呼びかけなど)づくりを主



県雇用創出基金事業

府中市で54カ所目のアドプト

故栗原会長の遺志継ぎ、除幕式

～大黒町内会～

「アドプトNETひろしま」とは

「アドプトNETひろしま」は、アドプトプログラムの考えに基づき、県内の公衛協で地域の公共空間を育もうという事業。アドプト(アダプト)＝「養子縁組」を意味し、住民や企業が「里親」になり一定の空間を「養子」とみなして定期的に清掃をして面倒をみていくというもの。

公衛協がアドプトしているのは、児童公園や広場、河川、川土手、駅舎、国立公園などさまざま。

アドプトの活動内容

- 散乱ごみの清掃
- 草取り・草刈り
- 花の植栽・樹木の剪定
- 河川の浄化 など

河川清掃や花の植栽などに取組むこととした。府中市公衛連では早くから組織ぐるみでこの運動の拡充を推進しており、今回の指定は五十四カ所目になる。申請は八月末に行われ、申請者は

市公衛連会長でもあり同町内会長の栗原進氏。「府中市に初旬だった。「喜んで」と答えてから一週間後、栗原さんが急逝された(享年八十五歳)後日、「強いご遺志であったので、予定通り行います」と副会長の小坪裕さんから案内が届いた。

出席してほしい」と電話で元気に要請を受けたのは十月の初旬だった。「喜んで」と答えてから一週間後、栗原さんが急逝された(享年八十五歳)後日、「強いご遺志であったので、予定通り行います」と副会長の小坪裕さんから案内が届いた。

現在、県内で約二百五十の公共空間がアドプトされ、公衛協の美化活動は続けられている。

(地域活動支援センター長 藤田直紀)

住宅用太陽光発電導入支援対策補助事業 広島県窓口にて指定

地球温暖化問題が深刻化する中、石油代替エネルギーとして太陽光発電の飛躍的な普及が望まれる。そのなかで、住宅用太陽光発電の普及に向けて国として支援策を講じることとなり、経済産業省が補助制度をスタートさせた。この制度は、一定の要件を満たす住宅用太陽光発電システムを設置する者に対して、定額の補助を実施するもの。有限責任中間法人太陽光発電協会/太陽光発電普及拡大センター(J-PEC)が運営し、全都道府県に窓口団体が指定されている。補助制度の概要の主な点は右図の通り。

※補助金交付には、条件がございます。詳しくはJ-PECのHPもしくは、当会へお問合せください。

問合せ先: 〒730-8631 広島市中区広瀬北町9-1

(財)広島県環境保健協会 企画開発センター TEL: 082 (293) 1505 (ダイヤル) FAX: 082 (293) 1535

制度の概要

- 募集期間: 2009年11月20日～2010年3月31日
- 補助金額: 太陽電池モジュールの公称最大出力 7万円/kW
- 対象者: 自ら居住する住宅に対象システムを新たに設置する個人で、電灯契約をしている方
- 対象システム: J-PECの規定、および最大出力が10kW未満、システム価格が70万円(税抜)/kW以下を満たすこと
- 申請方法: 都道府県別の受付窓口にて申請書類を提出